

LEONTODO

N-ro 61

ENHAVO

	paĝo
Programo de la 41-a Hokkajda Kongreso	1
Kasraporto de HEL	44
全道一斉エスペラント入門講習会	5
北見で「ガメソ」ホフ祭	6
ARKIVO DE HEL (4) -- マッカーサー元帥への陳情書.. Aizawa H....	8
OROKOJ EN JAPANIO ... Morita T., tr. Mukai T....	13
Io okazonta	Kim Ĉ.15
S-ro 松葉先生の文(No 60)について	Hoŝida A....17
地方会の名称について	"19
ajnoか ainoか	Mukai T....20
Kitami Esperanto-Asocioは生きている	Ikemoto M..22
再び松葉先生の手紙から	Matuba K...25
編集者より28
低くひくく晴の所了(2)	A.H30
北海道エスペラント連盟会員住所録32

P R O G R A M O
DE
LA 41-A KONGRESO DE ESPERANTISTOJ EN HOKKAJDO

LA UNUA TAGO (la 23-a de julio, sabato)

15:00 giĉeto ekfunkcias. en la gastejo
15:30-17:30 Amuza kunsido
17:30-18:30 Vespermango
19:00 Gaja Vespero
 Prezentado kaj parolado de
 f-ino J. Markarian pri angla vivo
 Prezentado de malgranda teatraĵo
 "Pensu iom logike!" el "Esperanta Mozaiko"
 de "Ludemuloj en Sapporo"
 paroladoj, raportoj, kantado ktp.
21:00 Libertempo ĉe Komitata Kunsido de HEL
22:00 Enlitigo

LA DUA TAGO (la 24-a de julio, dimanĉo)

9:00 Malferma Soleno kaj Laborkunsido
 en la kongresejo

1. Malferma deklaro
2. Kantado de la himno "ESPERO"
3. Elekto de kongresaj prezidantoj
4. Salutoj; Prezidanto de HEL
 Gastoj
 reprezentantoj de lokaj
 grupoj
 individuaj membroj
5. Raportoj de la agado
 HEL, HEC, libroservo de HEL
6. Diskuto kaj decido pri proponoj
 kaj venonta kongresa loko

11:30 Ferma Soleno
 Saluto de prezidanto de HEL, kantado
 de "TAGIĜO", ferma deklaro

11:50 memoriga fotado
12:00 tagmango - disiĝo

L A E S P E R O

En la mondon venis nova sento,
Tra la mondo iris forta voko,
Per flugiloj de facila vento
Nun de loko flugu ĝi al loko.
Ĝi la homan tiras familion:
Al la mond' eterne militanta
Ĝi permesas sanktan harmonion.
Sub la sankta signo de l' espero
Kolektigas pacaĵ batalantoj.
Kaj rapide kreskas la afero
Per laboro de la esperantoj.
Forte staras muroj de miljaroj
Inter la popoloj dividitaj,
Sed dissaltos la obstinaj baroj
Per la sankta amo disbatitaj.
Sur neutrala lingva fundamento
Komprenante unu la alian,
La popoloj faros en konsento
Unu grandan rondon familian.
Nia diligenta kolegaro
En laboro paca ne laciĝos,
Ĝis la bela sonĝo de l' homaro
Por eterna ben' efektiviĝos.

L A T A G I Ĝ O

Agordu la brustojn ho nia fratar',
Por nova, pli vigla jam kanto!
Ĝi sonu potence de montoj al mar',
Anoncu al ĉiu dormanto:
Tagiĝo, tagiĝo radias en rond',
La ombroj de nokto forkuras el mond'.
Post longa migrado sur dorna la voj'
Minacis nin endoj de l' maro:
Sed venkis ni ilin kaj velas kun ĝoj'
Al verda haven' de l' homaro.
Post longa batalo maldolĉa turment'
La steĉa standardo jam flirtas en vent'.
En ĉiu mondparto, en ĉiu ter-zon',
En koroj de centoj da miloj,
Jam vibras por nia saluto reson',
Do kantas de l' tero ni filoj:
Tagiĝo, tagiĝo radias en rond',
La ombroj de nokto forkuras el mond'.

★ 耳の疾患のため聴力不十分で治療中なので、夜間外出差控えております。遠隔地旅行も当分かないませんので御諒承下さい。

皆さんに、もう5、6年お会いしておりませんが、もうしばらく辛抱してからお目にかかりたいと思っておりますのでよろしく、

大会の御盛会を祈ります。 高橋 要一(札幌)

★ 名ばかりの会員になりそうです。でも、学内外で人にあうと、エスペラントについてよくたずねられるので、そのときはエスペランチストになります。日常熱心に活動しておられる方々に申し訳けなく思いながら

三沢 正博(札幌)

★第々/回の大会を盛会のうちにはこばれる事を心よりお慶び申し上げます。私自身なまけぐせのままここ3年間空白ですが、まだ眼がさめませんので、当分の間お休みさせていただきます。

鈴木 正子(札幌)

★ 若いうちに趣味でもよい、自由に話せる言葉を一つマスターしておくこと。(今年4月にニューヨークに行つて参りました。(里親会国際会議))

笹村 貞雄(札幌)

★日本語で悩んでいます。エスペラントはほとんどやつていません。めしの種の国語は覚えなければなりませんので、しかたなしにやつています。教科書の表記の基準などがかわり、また、字体、送り仮名(本則、許容)など、いつもわからないことだらけです。句読点でも、中江篤介著「一年有半・統一年有半」岩波文庫は読点だけの使用ですし、谷崎の「春琴抄」は読点の使用が極端に少ないものとか。右、左の語源でも、白川静のように呪具と考えるものからいろいろです。通用か本来かでも、一日三秋、叱る、一所懸命、広長舌、長広舌、侃々諤々。表記でも分を認めるか、分でいくかなど。

浜田 国貞(浜中)

★ ご連絡ありがとうございました。また今年も参加できそうもありませんのを心苦しく思いますけれど、健康上からも、所用の上からも、どうにもならないのです。あしからずお願い申し上げておきます。

ご盛会を心から祈り上げまして

Signifoplenan prosperon por nia komuna Kongreso
estonta!!!

早川 昇(小樽)

KASRAPORTO (1976.7.1~1977.6.30)

<u>ENSPEZO</u>		<u>ELSPEZO</u>	
前期よりの繰越金	55,810円	印刷費	72,000円
会費	104,800円	通信費・送料	
寄付	22,800円	(Len-roj) 59.60	22,600-
雑収入 (貯蓄利息, 合宿残金 etc)	12,593円	切手ハガキ	4,200-
	206,006円	封筒	300-
		電話	390-
		手電	290-
		事務用品	4,182-
		その他	2,360-
		R.O por 1977.	2,600-
収入 - 支出			
206,006円 - 110,922円			
<u>95,084円</u>			<u>110,922円</u>

黒川恵美子さん送別会

長らく札幌での中心メンバーだった黒川恵美子さんが御結婚のため稚内に移ることになった。6月30日、札幌エス会の若手により、彼女の結婚を祝い、かつ、別れを惜しむ会が、市内東札幌の喫茶店「ポパイ」でおこなわれた。苫小牧の星田さん、北見の池本さんの電話による参加を含め十数人が集まった。留目さんのバイオリン演奏、全体合唱と、黒川さんの手料理を囲んでなどやかに会は進み、9時ごろ終了した。

なお、札幌エス会から彼女に「Fundamenta Krestomatia」が贈られた

全道一斉エスペラント入門講習会順調に進行中

今年の3月/2日に、センターで行なわれた講師研究会での討議をふまえて、5月の連休明けから、全道で入門講習会がはじまりました。現在、札幌5名、北見7名、苫小牧5名(7月/日現在)の講習生を得ているそうです。講習生のための機関紙「La Verda Fadeno」も月刊で出され、三つの講習会をつなぐ役割を果たしています。以下「La Verda Fadeno」から転載します。

札幌

今の時点で参加者が5人というのは、ほぼ昨年並みであるが、顔ぶれが *tre interesaj* である。4人が病院勤務者で、内訳は、下村さん、石地さん、川上さんが看護婦、越智さんが薬剤師という具合である。友田さんだけが学生で、例年とは様相がかなり違う。ちよつと大げさに言えば、白衣の天使達の持つ精神風土と *vera esperantista spirito* との間に共通する何かがあるのかも知れない。

苫小牧

苫小牧では毎年講習会をやっているが、昨年は新人ゼロだったので、ほつとしたところ。エスペラントとは何か、を説明しながら我々の努力不足を痛感。つまり世の人の目にふれる活動がほとんどなかつたこと。動機は2人が好奇心、1人が国際文通をやりたい(出張でソ連に行つたが英語は通じず、会話書のロシア語もむり、結局通訳のいう事を聞くだけだった)、2人は話を聞いて、のぞいてみようか、とやつて来たもの。

北見

5月/0日から始まり、講習生は全部で7人。「エレメンタ・レゴリプロ」をテキストに、KEAの会員が毎週交代で1課ずつ受け持つて指導している。講習の指導なんてはじめてというズブシロだが、多忙の時間のやりくりをつけるためにとつた苦肉の策。「はだしの講師陣」の *metodo* は将来きつと役立つことと思う。

各地の講習会場は次のとおり。

札幌

中央タイピスト学院(札幌市中央区南2西4 tel. 251-4750)

毎週土曜 18:00 ~ 20:00

苫 小 牧

苫小牧市公民館（苫小牧市本町1-1 tel 33-8131）

毎週金曜 18:00 ~ 20:00

北 見

北見市文化会館（北見市三楽町133 旧労働基準監督署跡

tel 23-0910）

なお、Heroldo de Esperanto に出した文通広告を見て、センターあてに、すでに30通以上の手紙が来ています。とても道内では消化しきれぬ量です。どなたか文通希望者はおりませんか。

北見でザメンホフ祭

1976年12月3日、午後7時から例会場の喫茶店「ボルガ」の2階を借り切つて、はじめてのザメンホフ祭を祝つた。名古屋からスキーを楽しみがてらやつて来た三ツ石氏、中標津からエスペラントの空気を吸い込みにやつて来た牧童の北原青年も合せて参加者10人。まづまづの出席率だつた。

北見工大食堂特製のみごとなオードブルをサカナに、飲むほどに酔うほどに話がこんがらがり、予定していたプログラーモはほとんどが消化しきれず、どうにか年間総まとめと77年への抱負をまとめたところで閉店。二次、三次会場へと足を運んだが、まあ何となく楽しく時を過ごした。もう少し *enhavo-riĉa* なものにすべきかとも思うが、限られた時間と場所では、それがなかなか難しい。そこで、今回は池本 氏が、ザメンホフがエスペラントを発表するまでのいきさつを、彼の生地、ポーランドの社会的、言語的混同人状態と対比させ、略年表風にまとめてコピーし、みんなに読んでもらった。このコピーをあとで北見市内で「オホーツク民衆史発掘運動」を続けている小池喜孝氏にも渡し、エスペラントに対する認識を深めてもらった。（池本）

世界の仲間と文通の輪を...

北見エスペラント協会

この協会は、北見エスペラント協会を中心とする、北見エスペラント協会の活動の中心となる。この協会の活動の中心となる。この協会の活動の中心となる。



「せひ世界各地に文通の仲間を」と英しそらな会員や受講生たち

受講生へ手紙続々

早く上達 一段と学習に熱入る

函館の北見エスペラント協会主催の「せひ世界各地に文通の仲間を」という講座が、世界中の仲間から受講生の手紙が次々と届いている。受講生は「自己紹介、しなやか、興味深い、おもしろい、勉強のモチベーションを高める」として、早く手紙が来るようにと励まされ、学習に一段と熱入っている。

初心者が協会でも、毎週水曜日の夜三時、北見文化館に集まり、文通を学ぶ。受講生は「自己紹介、しなやか、興味深い、おもしろい、勉強のモチベーションを高める」として、早く手紙が来るようにと励まされ、学習に一段と熱入っている。

この協会は、北見エスペラント協会を中心とする、北見エスペラント協会の活動の中心となる。この協会の活動の中心となる。この協会の活動の中心となる。

受講生は「自己紹介、しなやか、興味深い、おもしろい、勉強のモチベーションを高める」として、早く手紙が来るようにと励まされ、学習に一段と熱入っている。

Rim. Universala Esperanto-Asocio
ne estas eldonejo de "Heroldo de Esperanto". (red.)

道北版

恋人の味
北見エスペラント協会
北見エスペラント協会

マッカーサー元帥への陳情書

相 沢 治 雄 (札 幌)

もしエスペラントで手紙が書けなかつたら、エスペラントで手紙を出す事が禁じられたら!

今の日本ではとても考えられないことだ。だが30数年前にはそういう時代があつたのだ。

戦争中は特高がしきりにエス文通信には目を光らせていたが禁止するといふ事はなかつた。ただだんだん通信が不便になり、ついには外国通信は全くできなくなつてしまつた。

だがそれはエスペラントに限つた事ではなかつたのだ。終戦時には満洲国、中国、印度支那、タイ、マカオ、ソ連邦、アフガニスタンが普通郵便物を送達しうる地域として告示に残されていたにすぎなかつた。

終戦後もそんな状態がつづいたばかりでなく、実質的に通信は禁止されていたのだ。ところが、1946年(昭27)9月5日連合軍総司令部から次のような覚書によつて日本と外国(ドイツを除く)との国際郵便業務の再開が指令された。しかしその条文の中に次の一項(b項)があつたのだ。

1946(昭和27年)9月5日付連合軍総司令部発日本政府あて覚書
(//頁参照)

連合軍最高司令官総司令部民間通信

APO500

AG3//, / CCS SCAPIN//77

1946年9月5日

覚 書 日本帝国政府あて
経 由 東京 終戦連絡中央事務局
題 目 日本と、ドイツを除くすべての外国との間の国際郵便業務の再開

1 日本と、ドイツを除くすべての外国との間の国際郵便業務が1946年9月10日から次の条項に従つて許される。

a (省 略)

b 郵便葉書の通信文は、個人的または家族的性質のもので、中国語、英語、フランス語、日本語、朝鮮語、ロシア語またはスペイン語で記載されたものでなければならぬ。書状（復員に関する公用郵便物を除く）および商業、金融上の通信は禁止される。

c 以下は省略する。

この覚書によつて友人に対して葉書は出せることにはなつたのだが、エスペラントはだめだといふのである。

この頃北海道では昭和7年に大会を開いたきりで、戦争中はばらばらになつていた運動もようやく統一の芽をふき出して終戦後初めての大会、第11回大会を札幌で開く事にした。1942年（昭和7）第10回の大会が開かれてから4年ぶりの事である。

参加者も10名位のものと思われたし、適当な場所もなく、定鉄労組の集会所を使用する事にした。この集会所は戦争中は青年学校として使用され軍事教練などに使われていたのだが、この時には労働組合が結成され、私が第一回の委員長になつてこの青年学校を組合の集会所として使用する事となり、ここで第11回北海道エスペラント大会が開催されることになつた。

ところが、出席者は10名位かと思われたのに当日参加したのは下記の17名であつた。

木村喜壬治、当摩憲三、岡本義雄、斉藤亀代三、脇坂圭二、河野広道、岡垣千一郎、相沢治雄、江口音吉、井上元則、坂下清一、新田為男、藤川哲蔵、鶴近庄次路、竹吉正広、藤原信一、栗林並に子供1人。

この大会で決議された案件は6件であつたが、そのうちの一つに「Esp.通信をマ司令官に陳情の件」があつた。

総司令部の通信許可の前述の覚書は9月5日に発せられて10日から実施され、大会は9月22日であるから正に期をとらえたと言ひ得るであろう。

しかしこの陳情書をどうして総司令部にとどけるかといふ事は問題であつた。

ここで少し余談にわたるようだが、その当時の私鉄の組合組織の事にふれなければならぬ。北海道の私鉄並びに都市交通は全国にさきがけて北海道交通労働組合連合会（北交連）というものを作つていた。委員長には美唄鉄道の成田といふ人が、私が副委員長、書記長には共産党の村上由であつた。ところが中央では日本交通労働組合連合会があり、これは東京都電の組合が牛耳つていたので、これを不満とする関西の私鉄が、私鉄は私鉄で独立しようとする動きが

出始めた。その真相というものが、北海道にいるわれわれに了解出来ず、
12月末には私鉄総連の結成大会が行なわれるというので、その真相をたし
かめ、出来れば組合の分裂をくい止める目的で私と美唄鉄道の柳川春雄とい
う男と2人で大阪に行く事になった。途中東京に立寄り島上善五郎（東京都
電）にも会いいろいろ話を聞いて見ると私鉄と都市交通は別組織にする事が
より良い形体である事が解り、私鉄総連の結成に賛成する事になった。とこ
ろが、手紙も電報も通じない状態の時なので結成大会は1947年1月10
日である事がわかつたのは大阪に着いてからの事であつた。それで一旦札幌
に帰ろうかと思つたが、あの当時の事情ではそれも無理なので、1月10日
まで約1カ月大阪に止まる事にした。そして柳川を北海道に帰し釧路臨港鉄
道の堀井利勝（後に総評議長となる）をつれて行く事になった。約1カ月の
間私は大阪に止まり、京阪神の組合にはずい分世話になつたが、京阪神委員
長藤田藤太郎（第1回の私鉄総連委員長となる）と書記長の坪脇喜代男が熱
心なエスペランティストであり労働運動にはエスペラントの精神を盛り込んで
大衆を指導しているとの事であつた。1947年1月10日大阪市北市民会
館で私鉄総連結成大会は挙行され、2月5日私は出版部長となつた。

話は十分余談にわたつたが、芝放送会館のマ司令部を訪問したのは12月
25日であつた。まさか直接マ元帥に面会出来るとは思わなかつたが、然る
べき要人には会えるんじゃないかと思つていた。ところが、当日は丁度クリ
スマスに當つていたので適当な要員は皆不在で、しかたがなく、名前は忘れ
たが渉外部関係のある中尉に手渡し、必ずマ元帥にお渡し願ひたいとのん
で来た。しかしその後何等の連絡もなかつたのでマ元帥の手に渡つたかどう
かは確認していない。組合関係の一人一人についてくわしい情報を把握して
いたG.H.Q.の事だ。こんな陳情があつた位の事はマ元帥の耳に入つたと信じ
ている。（陳情書は12頁参照）

1946年の覚書には言語の問題だけでなくいろいろな制限があつた。そ
れ等の制限が1947年（昭22）から徐々に解除された。エスペラント語
の使用が許可されたのは1948年（昭23）4月25日の第6次拡張によ
り昭和23年5月1日逓信省令第13号によつて通信文の用語の制限が解除
され、印刷物に対する制限がすべて撤廃された。

その後10数回にわたつて各種の制限が、たとえば盲人用の点字印刷物、
遺骨を包有する小包等も送る事が出来るようになった。

エスペラント通信はその内必ず許可されることであつたと思う。しかしこの陳情書が言語の自由を一日でも早く獲得することに役立つたのではないかと思つている。

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS
Civil Communications Section

APO 500

AG 311.1 (5 Sep 46) CCS
(SCAPIN-1177)

MEMORANDUM FOR : THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT.
THROUGH : Central Liaison Office, Tokyo.
SUBJECT : Resumption of International Postal service
between Japan and all other countries except
Germany.

1. Resumption of International Postal service between Japan and all other countries, except Germany, is authorized effective 10 September 1946, subject to the following provisions:

a. ---

b. Communications on postal cards must be of a personal or family nature written in Chinese, English, French, Japanese, Korean, Russian, or Spanish. Letters (other than official mail pertaining to repatriation) and commercial and financial and communications are prohibited.

c. ---

陳 情 書

帝国主義的侵略と資本主義的搾取の対象を弱め小民族の上に求めた憎むべき日本軍閥とその傀儡であった政府は、無知にして世界の動勢を知らざる民衆を弾圧とデマ宣伝によりその耳目を完全にふさぎ民主的なるものへの関心を芟除し、一踏戦争へ戦争へとかり立て、あたかも戦争のみが国民を救ふ唯一の道であるかの如き錯覚を与えた。然るに民主主義国家によつて侵略の夢は破られ、国民は始めて軍閥にあやつられた自己を發見し民主主義の波はほうはいつ湧き興った。

われわれ平和を愛好し民主的運動の一翼を担うエスペラントイストは、戦争中幾多の戦圧に耐え今ここに世界より戦争を追放するために、真の平和を建設するために立った。われわれは全世界の平和を愛する同志と手をにぎりお互に胸襟を開いて語り合ふ日の一日も早からん事を熱望し又世界の真の姿を民衆に知らしめる義務あることを信ずるものである。悪虐なる軍閥よりわれわれを開放し日本の民主化を計りつつある連合軍におかれれば、われわれの熱烈なる平和建設の希望を、入れられエスペラントによる外国通信の速かなる再開を許可されんことを陳情するものである。

一九四六年十二月拾五日

ザメソホフ 記念日 北海道エスペラント連盟 (印)

連合軍最高司令官

マックアーサー元帥閣下

(旧漢字は、当用漢字にあらためました、red)

OROKOJ EN JAPANIO

MORITA Toŝio

— estro de Naciedukada Instituto —

Antaŭ kelkaj tagoj, sur ĉi tiu ĵurnalo (la 6-a de oktobro, eldono en Tokio) aperis artikolo, ke ĉi tiun fondon, al unu el naciminoritataj orokoj kaj loĝantoj en urbo Abaŝiri, KITAGAŬA Gentaroo (52-jara), kiu postulas, "Mi estis rekvizita kiel spiono fare de pasinta japantrupo, kaj post la milito estis tenita perforte kiel 'japanmilitisto' en Siberio. Do la ŝtato pagu emerituron al mi kiel militisto." atingis komuniko de Ministrejo por Publika Bonfarto, "La ministrejo ne povas akcepti, ke la rekvizicio bazas sur la leĝo pri militservo." Do la emeritura pago fariĝis malespereca situacio.

Mi supozas, ke pluraj el legantoj unumomente estis altiritaj sian atenton al presliteroj, "Naciminoritato, oroko," sed ili finis legi la artikolon kun kolero ne pro la presliteroj, sed pro ke la registaro ree knedas leĝon kaj sintenas senkore al la viktimumo de la milito. Nu, ĉu problemo sur fundo de la postulo de s-ro Kitagaŭa vere ne estas la principa problemo sur la konstitucio, "garantio por la rajto de la naciminoritato," kiu ankoraŭ ne estas aprobita en Japanio, kaj vere ne estas problemo, kiu havas rilaton kun la nacia karaktero kaj konscienco de plimulto, japanoj?

S-ro Kitagaŭa estas unu el la gento ultoj (Orokoj estas la aina lingvo al ili,) kiu loĝis en suda Sahaleno. En 1926 japana registaro translokigis perforte ĉiujn orokojn al Otas, kaj liberan produktan agadon kaj socian disvolvigon de ili — ambaŭ estas certe propraj rajtoj de ĉiuj naciminoritatoj — malhelpis. Kaj en 1942, la speciala informistaro de la terarmeo "kunvokis" orokojn, kiuj superis pri pafado kaj agado sur neĝkampo, por la spiona agado al Sovetio. Homoj, kelkaj familioj inkluzive s-ro Kitagaŭa, kiuj finis la perfortan tenitan vivon en Siberio kaj venis al Japanio, penis eltenante antaŭjuĝon per ĉiuj siaj fortoj por ke ili estu "bonaj japanoj", kiel la artikolo. Sed la registaro ne akceptis la pravan postuleton. Nu, nova situacio estas naskiĝinta el la postulo kaj movado. Tio estas ke s-ro Kitagaŭa faris "deklaro-n kiel oroko-n", ("Ainaĵ kaj orokaj problemoj kaj edukado" de Konferenco de Historiaj Instruistoj en Hokkajdo • "Denzoo kaj Morizoo" de KOIKE Joŝitaka) en altigo de solidara movado kun ainoj kaj orokoj de japanaj instruistoj, scienculoj, kaj civitanoj en Hokkajdo por protekto de la naciminoritataj rajtoj de ainoj kaj orokoj.

"Sur la ŝultroj, orokoj portu la dignon de la gento oroko, kaj ne forĵetu lingvon, kulturon, kaj kutimojn de orokoj, sed transdonu konservante la verajn," antaŭ ol ili estu "la bonaj japanoj." (Proteste al "Fajrfesto Oroĉo" de turisma okazaĵo k.t.p.) Antaŭ ĉirkaŭ unu jaro mi emociiĝis pro pureco de la oroka vekigo, kaj ĝojis, ke estas elhakita vojo, sur kiu oni reprenos la nacian karakteron kaj konsciencan de plimulto, japanoj, el kiuj ankaŭ mi estas unu, kiam mi eksciis la deklaron. Kompreneble la vojo estas kruta.

La alvoko de s-ro Kitagaŭa kaj liaj kamaradoj eltiris konsciencajn atestojn de pasintaj ĝendarmoj kaj membroj de la speciala informistaro, kaj al instruistoj kaj scienculoj reakirigis konsciencojn, ili ne estu ĝisnuna "demonia scienco, kiu sukcesas vundigante animojn" de la naciminoritatoj. (Akra denunco de aina lingvisto, mortinta ĈIRI Maŝiho, 1934) Sed oni ankoraŭ ne povas ŝanĝigi politikon de la reganta klaso en ĉi tiu ŝtato per la konscienco, kiun nun reakiris japanoj.

Kiam oni rigardas returne historion, oni povas rimarki, ke proponoj de ainoj por rajtoj de naciminoritato kaj solidara movado de japanoj kun ainoj (Altigo de postmalvenko de la dua mondmilito estas de post ĉirkaŭ 1965) fruktas tiom, ke ili akceptigis unuafoje ainojn kiel naciminoritaton, kaj presigis pri protekto por naciminoritataj rajtoj kaj pri forigo de diskriminacio kiel problemo de la japana demokratismo sur planoj pri reformo de ŝtata administrado (Principoj pri koalicia kabineto) de Japana Komunista Partio aŭ Socialisma Partio de post 1970.

Ĝuste ili devis proponi la principan problemon de la konstitucio, kaj reformon de la nacia karaktero kaj konscienco de plimulto, japanoj. Nu, kiom ni mem forviŝas senkoran asimilismon, kiu estas transdonita de post la epoko Mejĵi, kaj kaŝiĝas en la japana registara opinio al s-ro Kitagaŭa kaj similaj, "Akira de ŝtataneco de Japanio signifas asimilado"?

La problemo estas ne nur pri ainoj kaj orokoj. Estas homoj, koreoj kaj ĉinoj, kiuj fariĝis nacioj de Japanio pro tiel nomata naciigo. (Ankoraŭ solvo de problemo pri rajtoj de la naciigoj de Azio ne estas plena. "Naciigo kaj familisistemo de koreoj kaj ĉinoj en Japanio" de s-ro OSAKATA Naokiĉi) Kiom ili estas suferigitaj fare de la asimilismo? Samtempe, kiom estas haltigitaj plimulto, japanoj, ĉe la nescienca nacieca supereca komplekso aŭ la nacieca nihilismo? Kaj kiom estas barita la memkonscia formado pri la nacieca digno de ili mem?

La registaro ankoraŭ ne diras nuligon de "La leĝo pri protekto por la malnovaj indiĝenoj en Hokkajdo!" (1899) Ĝi

estis efektivigita pro kompreno, ainojn, de kiuj tero "estas kaptita fare de enmigrantoj el japanlando, kaj kiuj perdas rimedon por saviĝo tago post tago, kaj nur atendas morton pro frostoj," oni ne povas helpi pro "fluo de rezono, postvivo de la plejtaŭga." (Publika skribaĵo pri kialo de la leĝa efektivigo)

Por starigo de la karaktero, la konscienco, kaj la nacia digno de la japanoj, ni devas almenaŭ altigi sin mem ĝis memkonscio, en kiu ni tenas la problemon kiel la principon sur la konstitucio, pro tekstoj, "protekto al la lingvomalplimulto laŭ la specialaj reguloj (6-a paragrafo sur la itala konstitucio), taŭgan "politikon pri la bieno efektivigas" oni, kaj "disvolvigas ekonomion kaj kulturon", kaj "rajtoj uzi siajn lingvojn kaj literojn, rajtoj disvolvigati siajn naciajn kulturojn kaj artojn", kaj "rajtoj konservi aŭ ŝanĝigi kutimojn" k.t.p. kiuj estas garantitaj. ("Politika principo" de Nacia Fronto de Liberigo de Sud-vjetnamio)

el "Ĵurnalo Asahi" (la 30-a de novembro, 1976)
tradukinto MUKAI Toyoaki

Io okazonta

Kim Ĉolbu (Osaka)

Vi, koreoj, kantas kanton de Generalo Kim Ilsonĝ, tiam, kiam vi sentas sin malĝojaj, por stimuli sin per pli da kuraĝo por sufiĉe venki nunan malfacilaĵon, kaj ankaŭ tiam, kiam vi sentis sin ĝojaj, por festi dancantan koron kune kun kamaradoj, por pliinstitigi sin atingi pli da rezultato. Kiam vi kantas la kanton, via koro estas ĉiam ĉe Patrujo, kie oni konstruadas socialisman landon en pliebla rapido , por plene likvidi la jam pasintan malfeliĉon kaj por plene ĝui akirantajn komunajojn. Tiaj estas vi, Patrujanoj.

Ho, ve! Kiaj estas ni, koreoj en Japanio! Ankaŭ ni kantas la kanton, ne por instigi sin, sed nur por sonĝi, revii Patrujon. Ankaŭ ni plenforte laboras, ne por ĝui koran kontentecon, sed nur por materiala deziro kaj por pliforpegi sin en profundan agonion. Nia ekzisto similas al tiu de proletaro, kiu ju pli laboras por sia vivo, sed esence por kapitalo, des pli forpelas sin mem en plimizieran staton por finfine pendumi sin.

Nun ni, koreoj en Japanio, devas kontraŭvole suferi duoblajn jugojn, spiritan kaj materialan, tio signifas, ke ni ne povu esti personoj, havantaj homajn rajtojn, sed sklavoj trenantaj du ferglobojn ĉe piedkoloj. Unu el la fergloboj estas farita de Japana Registaro, kiu rigardas nin kiel problemon de naciaj minoritatoj en sia lando kaj nin eĉ rekomendas fariĝi japanoj. Ho, ankoraŭfoje ve! Devas esti etiketo, la plej intima sed prudenta, precipe inter ni, frataj nacioj. Ni havas la alian ferglobon, kiu estis farita de koreoj mem.

Ni estas renkonte iranta al grava ŝtato, ke pli ol 80 procentoj da koreoj en Japanio naskiĝis en "fremda lando" Japanio. Plejaulte el ili ne parolas la korean lingvon, eĉ unu fojon ne vidas per siaj okuloj Patrujon, eĉ penantaj vuali sian ekziston kiel koreon. Patrujo, kia estus ĝi? Kiaj estus homoj loĝantaj tie? Ĝin ni songas, sopiras... Ĝin ni auskultas, rigardas en fotoj, legas en libroj... Vane! Kio estas Patrujo? Ne tia, songi, sopiri, auskulti,..., sed tia, preparoli, priskribi, priauskultigi...

Estas tempo, aŭ jam venis, ke ni, junaj koreoj en Japanio devas Patrujon preparoli, priskribi, priauskultigi, anstataŭante unuajn generaciojn, niajn gepatrojn. Ni, junaj koreoj, agonias tion fari por vane retiriĝi pro manko de nia forto. Kvankam ni estas malfortaj, sed kio estas tiu ĉi emocio? La emocio sen emocia, kiu penetras en niajn korojn, kvazaŭ diranta, ke vekigu, ho dormantoj, kaj ke levigu, ho batalantoj, jam estas tempo por ni anstataŭi niajn gepatrojn por plene esprimi nian junan korean koron sur bazo de unuigintaj koreaj junularoj loĝantaj en Japanio. Ĉar ni, junaj estas plimulto de koreoj loĝantaj en Japanio. Plie, tiuj junaj koreoj, kiuj ankoraŭ ne vekigantaj aŭ vekigantaj sian naciecon, devas iniciati tian movadon kaj devas preni hegemonion de junaj koreoj en Japanio ĉar tiuj estas plimulto.

Tion mi ne songas nek sopiras, sed reale eksentas en lastatempa pensado kaj praktikado. En Oosaka, certe ekĝermas tiaj germoj, kiuj ne klare difinas siajn devojn, de Norda aŭ de Suda, sed staras sur tiuj dividoj kaj sur konkretaj kondiĉoj de junaj koreoj en Japanio ili nun serĉas la sintezitan vojon sur bazo de Sud-Norda Komuna Deklaro de la 4-a de julio de la jaro 1972, kiel niaj gepatroj staras sur liberigo de la 15-a de aŭgusto de la jaro 1945. Por tia movado Korea Esperanto-Asocio en Japanio ankau ludus gravan rolon, tiel aplikante nian lingvon al niaj naciaj problemoj. Kaj Esperanto fariĝus por ni, iam ĉefa kaj iam flanko, tio estas natura dialektiko. Io okazonta.... en Oosaka.

S-ro 松葉菊延の文(1660)について

星 田 淳 (苫小牧)

S-ro 松葉を煙たく感ずる人も多いのですが、今の Esp-ujo でこれだけ卒直に人の誤りを指摘する実力と自信を持つた人は少なく、それだけに貴重な存在と思います。何気なく自分の書いたり使ったりしている事を考え直すいい機会を与えられたものと考えます。ただし、考えた結果、彼の意見に同意できない場合は、質問して論じあえば更に勉強になるでしょう。

ところで60号の P.46 「Ajno か aino か」、内容には特に異議なし。結局我々 Esp-istoj がどう使うかで決まること。ただ、文を読んで変な所教カ所。恐らく書き違いか、印刷ミスか。こんな文の場合、誤解のもと。

P.46 下から4行目の「京城」、今のソウル(서울)は dusilaba だから、つづりから見ると Se-ul の方が近いと思います。どこの国民でも Esp.化するあたり、自国語に近くしたいと考えるのが自然でしょう。それが Esp.としても自然な形になれば一番いいのですが。

P.49 「Neebla にはふたつの意味があるか」

50年前からという ĉiam nova problemo。Esp.の合成語の場合、nei と ebla のような派生語が合成されて本来の語根同士の ne+ebla の形と衝突する時は、本来の語の方が優先するという事でしょうか。

P.51 「松葉先生の手紙から」

9行目の Kitami Esp-Asocio の件、S-ro 松葉長年の持論、なかなか大勢を動かすに至りません。外国の例をみても、これに似た neinternacia formo が国によつてはかなり多いようです。(別稿に示します。)新しく会の名をつける時、考えるべき問題です。

同ページ下から8行目 Japanio は U E A では公認、-io、-ujo は各人の自由にかかせることになつていきます。

下から4行目終りの la soldatoj は al soldatoj のはず。

/2行以降、Iĉikaŭa はイチカワか?

この使い方は、P I V、PLENA GRAMATIKO では当然と認められている。以下は P G /より

Rim. ...sed nenio en la lingvo malhelpos uzi ĝin (=ŭ) ankaŭ ĉe la komenco de vorto, sekve ankaŭ eventuale sud la

majuskla formo ĉe la geografiaj nomoj, kiel faras la japanoj

この部分の前からを含めていうと、こうなります。

「ūはEsp.ではeū, sūの形で必ず外の字に続いて置かれるものだが、地名の場合、日本人がやつているように語頭に使う事を妨げるものではない」

この「語頭」はsilaboの初めと理解できるら、PIVにあるように ŭakamacu は日本の「若松」に使う事ができるわけ。当然、固有名詞の一kaŭaをカワと読むのを妨げる事はないでしょう。

試みに、各国語の講習書でEsp.の発音をどう説明しているかみると、「ū」については、

★自国語の二重母音発音〔au又はeu〕にならわせたり

★短い〔u〕又は〔w〕と説明

しています。上記〔 〕内は万国標音記号。問題のhieraua等の—aŭaも各人の発音を聞くと〔—auə〕から、早口の場合〔—awə〕まで若干の変異があるようです。カナで書くと、「—アウ^ウ」、「—アワ」が近いでしょう。

世界エスペラント大会(U.K.)の時のKongresa Libroでは、大ていその国のことばでの簡単な会話の解説がついているが、〔w〕音はいつもūであらわされています。

例： Bonan Tagon! Konniĉi— ŭa!

Kio estas tio? Ĉoc dat? (what's that?)

... vinon sam ŭajn (some wine)

(例は50—a, 57—a U.KのKongreslibroより)

ūa がワの発音表現に、もう一般的に使われているわけです。国際語として考えてみても、世界各国語に広く使われているワ〔wa〕の音を表わせないとする、その表音体系は欠陥がある事にならないでしょうか。

地方会の名称について

星田 淳 (舌小牧)

LEONTICDO N-ro 60 の P.5 / で S-ro 松葉から地方会の名について強調されています。これはあくまで正論ですが、我々の身边では、むしろこの誤りの方が普通といつていい状態。この地名 + Esp-Societo (Asocio) の形は、日本だけかという、そうでもなく、Anglismo - Cinismo - Japanismo と、ある程度の internaciseo を既にもっているようです。今後団体の名称を考えるとき考慮すべき問題ですが、一寸各国の団体名称はどうなっているか当ってみました。地方会名の目録はなかなかなく、1965年の JARLIBRO de UEA - dua parto を参照。12年前とはいえ、傾向はそう変わっていないと思います。

名称のつけ方を見わたすと色々の例がありますが、分類すると次のようになります。

- 1 問題の Kitami Esp-Societo 式。日本では大部分、他はアルゼンチン、ブラジルに数カ所。ニュージーランド、米国等英語国では英語の名称をそのままのせているの多いが、これは殆んどこの形式です。ノルウエーも同様
- 2 上の逆で、Esp-Grupo Aalen のように、地名をあとにおくもの。ドイツ(西)では大部分、地名の前に en をおいて考えればよいのでしょうか。スペインでも大半がこの形式。

3 "Amikeco" Esp-Grupo 式

Grupo 名を先におく。S-ro 松葉の批難する A-Grupo 方式。ハンガリーの大半がこれです。日本語と同じくウラルアルタイ語族であるハンガリーの *nacia fono* を感じます。

4 Hamburga Esp-Societo 式

地名を -a と形容詞化したもの。これは世界各国にそう片よりなく分布しているが、その多い比率ではない。地名 + Esp-Societo 式は、最初の地名を Esp 化すれば皆この形になる。この地名 + a は *tiuloka*, *tiea* の意味になるわけ。

5 その他の ortodoksaj sistemoj

- ただ Esp-Grupo, Esp-ista Grupo 等
- Esp-Rondeto ĉe . . . 式 (Ĉeĥoslovakio の大部分)

- Esp.-Societo "Estonto" 式
- 単に "Espero" のように会の名のみ出す。
- Sekcio de . . . , Filio de ~ のように、上部機関の支部としての名。ヨーロッパに多い。特に Nederlando, Pollando
- その他 いろいろ。

(まとめ)

以上のように、各国かなり会の名のつけ方にもお国ぶりがあります。しかし Esp. としておかしなものになつては困るので、これから新しく命名するにはよく考えねばならない。従来つかつていた Japnismaj nomoj は、例々の Hamburga Esp.-Societo 式にすれば、一番ムリなく解決できるのではないでしょう。

ajno か aino か

向井豊昭

Leontodo の 69 号の松葉菊延さんの「ajno か aino か」を読みました。アイヌを表現する エスペラント の単語を ajno にしてはだめだという松葉さんの論拠は 3 つに分けることができます。

1/ すでに、アイヌをあらわすものではない ajn という単語がエスペラントとして定着してしまつてゐる。

2/ 原語の発音にとだわつてエスペラントらしくないものになつてはならない

3/ aino は少なくとも 3 回は文献にあらわれ一般的である。

第 1 の論拠に、わたしはうなずきました。しかし、第 2、第 3 の論拠にわたしはうなずくことができません。

第 2 の論拠の中で、例えば松葉さんは、東京をあらわす Tokio に、Tokjo を比べ、エスペラント「らしいという点では、どうしても Tokio」「とならざるを得ない」とおつしやつてゐます。エスペラント「らしさ」とは、どういうことなのでしょう？ 舶来クサイということですか？ ザメンホフさんの Fundamenta Gramatiko を読んでみましたが、その答えはありませんでした。

さて、第 3 の論拠に至つては、まったくもつて理解することができません。

文献にあらわれているから aino が一般的だとおつしやられますが、それなら、文献では「てふてふ」だから「ちようちよう」は間違っているということでもなるでしょう。それに、その文献が、いずれも松葉さん自身の書かれたもの。これでは「自分は aino を使っている。だから aino がいいのだ」と言っておられるのと同じですよ。

いずれにしても、わたしにとつて、この問題は枝葉末節の問題です。Leontodo 58号でわたしはたしかに、アイヌの ajno とすべきだということを書きましたが、それは、6 ページにわたるわたしの文の中のほんの6行を占めるだけの問題であり、わたしが訴えたいことは、もつと別のこと、「アイヌの民族的復権のためにエスペランチストは何をしなければならないか」ということを考えてもらうことだつたのです。

エスペランチストというのは、「ajno だ」「いや aino だ」とかいうことだけを論議する人たちのことを言うのですか？ だつたら、わたしはエスペランチストになんかなりたくありません。さようなら。

kaj Junuloj kaj maljunuloj

V E N U !

al K I T A M I !

--- la 7-a " Aŭtuna Kunloĝado " ---

dato: la 8-an - 10-an de Oktobro, '77
loko: Kitami-si Sizen Kyūyō-mura Sentā
(Kitami-si Wakamatu 651-banti)

Tiu, kiu partoprenos en la kunloĝado turnu sin kun demando al Kitami Esperanto-Asocio (KEA).

池本盛雄（北見）

昨年秋、たまたま北海道エスペラントセンターで開かれた合宿に参加したが、その折に私たちの会の名「Kitami Esperanto—Asocio」の名づけ方が良くないと S-ro 松葉に指摘されていることを知らされた。氏のような Veterano、というより «aŭtentikulo»にわざわざそのような批判を寄せていただくことは、まことにもつて光栄と言わねばなるまいが、それをそのままお受けできない理由が二つある。

ひとつは、会への名指しの批判は、直接会の方へ寄せてほしかつた、ということ。松葉氏は先ごろタミール語の数詞について私に質問され、私はさつそく氏に回答しておいたので、こちらの adresoは先刻ご存知のまず。もうひとつは、氏の見解が即ちエスペラントの本筋とされるような dogmo に対する不満である。

私はけつしてザメンホフが ĉiopotenca だと考えるような ludovikito ではないが、ザメンホフの述べた幾つかの魅力的なことをひかれて、エスペラントのとりこになつた。

(1) «Fundamento de Esperanto»の中にある材料で、適当に言い表わせない思想はどれでもエスペランティストが、ほかのことばの場合と同じように、めいめいが、もつとも適切だと思ふ形でいい表わす自由がある。

(2) 私はまだ私の言語に最後の形体を与えてはいないのです。……すべての良くすべきところは、世の助言に従い、良くしていきましょう。私はこの言語の作り手ではなく、たんなる提案者でありたいと思うのです。

特に(2)が重要だと思う。私は、エスペラントは «internacia lingvo» と «interpopola lingvo» というとらえ方とは別に、アイヌ語式表現を借りれば «ci—kar—itak» (nia—kunkreata—lingvo) 即ち、「我々が・共ニ造ル・コトバ」だと思ひ、そこにエスペラントの良さを見出している。そこで «ni»とは誰か？ それはザメンホフがエスペラントを「提案」した時点では、少なくとも語学上の形式的な面では eŭropanoj であり eŭropdevenaj amerikanoj であつたと思う。その時はそれで良かった。しかし、今は、というよりこれからエスペラントがまんとうに inter—eŭropa なものから interpopola なものに発展していくためには、そうで

あつてはならない。

ザメンホフ自身のことばかりも推察できるよつて、もともと限りなく中立的な言語として発展し続ける要素を備えているはずのエスペラントの生命を19世紀のおりの中にとじこめてしまうことはない。こういう観点から、あまりにも eŭropisma な見解を示される氏の傾向に対して、sincere studema な氏に対する畏敬の念とはウラハラに、私は大きな失望を感じている。しかし、「eŭropismo の問題とは別である」とされる氏の説に従つて、ここではもつと近道をしよう。

この問題にふれて、福田正男氏が "La Dua Gvidlibro de Gramatiko Esperanta" の中で書いておられる。明治大学を "Meiji Universitato、目黒エスペラント会を Megro Esperanto Societo などとするのは「反文法的」で「ゆるせない間違い」であり、Universitato de Meiji Esperanto-Societo de Megro (?) のようにしなければならない、とする松葉先生に対して、福田先生は「これら大衆的な傾向を尊重して（迎合とは違います！）必要なところはハイホンを用いることにして、ずらりと日本式（この際、英語式といつてもよい）にならべても、ゆるされるのではないかと考えています」と書いています。私にはこの福田氏の態度すら迎合的に見えるが、それはその昔、「宮本天皇」をかしくもいただく関西地方で "Kansai Ligo de Esperanto-Grupoj" というような固有名詞がハンランしていた言語環境の中で育つたせいかも知れない。そう言えば、妙なことに、そしてめでたくも、かの関西エスペラント連盟のエスペラント名が、いつの間にか "Kansaja Ligo de Esperanto-Grupo" に変身してますな。しかし、"La Movado" 最近号には、その変身、成熟した名前と共に、昔なつかしい "Tokai Esperanto-Ligo" "Ĉuugoku-Sikoku Esperanto-Ligo" が並記されているから、さらに妙だ。成長度の違いですかね。

要するに、松葉文法では、"Kitami" のよつて、まだエスペラント化されていない固有名詞をほかのエスペラントのことばとくつつける時には、まずエスペラント化して、Kitama Esperanto-Asocio とするか、フランス式にし（これを松葉、福田両先生はフランス式ではないとおつしやるが、先のハイホンでつなぐ方式を日本式とか英語式とたとえるなら、これは全くフランス式だ） Esperanto-Asocio de Kitami とするしかない。或いは福田氏に迎合して Kitami-Esperanto-Asocio とするかどうかだろう。どちらにしても Kitami

Esperanto—Asocio は良くないというわけだ。この論法でいくと Tomakomai Esperanto—Societo (すでに使われている)も、もちろん良くない。しかし、このやり方は果して Esperantujo で少数派なのだろうか。前述の福田氏の文法書の中でも同じような例(国内のエスペラント団体名について)がいくつもリストアップされているが、外国でも次のような例が見られる。そしてこれはほんの一例なのである。

「アメリカ」 San Francisco—Esperanto—Regiona Organizaĵo (Sanfranciska ではない)、Esperanto—Societo Berkeley—Oaklando、Esperanto—Societo Sacramento (Sakramenta ではない)、Monterey—Amikoj de Esperanto、Napa Esperanto—Klubo (Napa はそのまま地名であり、Nap—o の形容詞形ではない。

「ドイツ」 la Gutenberg—muzeo

「香港」 la Hongkong—Oficejo (中国のエスペラント出版物では Hongkongo とエスペラント化した形が盛んに使われているが、ここでは元のままである)

「中国」 Siĉuan—provinco (四川省。まだ Siĉuana とはなっていない)、"El Popola Ĉinio" からの引用であるが、中国の出版物には、このような例が盛りだくさんある。

さらに、エスペラントの模範文例集ともいわれる "Fundamenta Krestomatio" の中にも Aleksandro Dumas、la franco Johano Hipolito Michon、Georgo Felsen、Leono Tolstoj のような例が顔出している。これらは固有名詞(この場合はヨーロッパの人名)の中でエスペラント化された部分と、エスペラント化しきれないままの部分とを並べて使っている点で Kitami Esperanto—Asocio と同じである。Georgo、Leono の方が Felsen—o、Tolstoj よりも nature にエスペラント化できたからであろう。Kitami Esperanto—Asocio が Kitama(aŭ Kitamia?) Esperanto—Asocio になるまでにもう少し nature に時を過した方がよいと思える。これは私だけでなく、例会に出席した KEA 会員の一人、s—ro 伊藤(北見工大のドイツ語の先生)が次の例を示して下さったので参考に。即ち外書に曰く：

"Names of smaller towns — especially remain unchanged: Cannes, Versailles etc. (J. Cresswell & John Hartley; Espe—

ranto, Teach Your-self Books)。似たような例が、たしか私が独習した「エスペラント四週間」(小野田幸雄)にもあつたと思う。

もともと私たちがこの名を採用したのは、十年ほど前にあつた「Kitami Esperanto-Societo」の名を受け継いだもので、短期間ではあつたが、この地方で活発に運動を展開したロンドの根を生かそうとしたためである。地方でうぶ声をあげた小さなロンドを育てるためには、まず先人の努力を最大限に利用すること、同じ名をくり返し外に向つて叫ぶことから始まるのだが、ことばいじりに終始する人や、中央のエリート活動家には、この辺の事情、わかるかな? とにかく、松葉氏が批判されるより前に、私たちの会の名はしばしば「Jurnalo」の紙面にも登場し、会員の s-ro 津村のデザインによるすばらしいスタンプまでできた。松葉先生には不具者に見えようとも、Kitami Esperanto-Asocio は既に歩いているのである。ほかの同類の仲間たちと同じように何の不自由もなく。

KEAの名のことで、ついくどくどと書いてしまつたが、これは要するに、エスペラントに対する考え方の相違の問題である。松葉氏はエスペラントの文法(というより私には松葉文法に見える)に固執し、私は数々の欠点を秘めながらも、使い手の創意工夫によつて限りなく中立的な(即ちどの使用者にもハンディキャップの少ない)言語に近づきうるエスペラントに期待する。そして一種の不安さを感じている。「Aŭtentikuloj」のつくつたがんじがらめの Sovismaĵ katenoj にしばられていては、エスペラントは死に絶えるだろうと。ことばが生き続けるためには使い手の自由が最大限に必要なだ。

再び松葉先生の手紙から

Leontodo N-ro 60 について松葉先生からいろいろ御批判、御指摘をいただきました。先生の御批判は非常に severa なものであります。たいていのエスペラントリストは常に大なり小なり誤りを犯します。ある本の著者が一冊の本に 300 あまりの間違ひがあつたと私に話してくれた事があります。おいそがしい先生から、北の小雑誌にこの様な批判をいただく事は光栄に思ひます。この御批判に恐れをなさず思い切つて自由にエス文を書いて下さい。そうしないうちだんだんエス文も上達するわけですから。(相沢)

Leontodo ご惠贈いただきありがとうございました。全部に眼をとおしたわけではありませんが見た範囲について例の如く気になつた事をするします。

P.4~5 ガリ版らしい字はまことに粗末でよみてくひ。Leontodo の Prestigo を difekti すること大なるを悲しみます。

P.6 : S-ro Kenzi → Kenji 人名をまちがえるのは困ります。

malbonfunkcio → malbonfunkciado か malbona f-o

en malsanlito → sur lito, malsan は不要

ekrememoris → ekmemoris か rememoris

Tuj mi eltiri la ekzemplerojn は不明

kaj mi povas daŭrigi → povos

enmanigeblaj en JEI → el または ĉe

Watanabe-T. は絶対に不可。T. Watanabe 又は Wat... , T. -T とするとこれまでが姓となる。

P./5 中央 中原○司 → 修

P./6 Tomakomi Esp-Societo → Tomakomai を末尾へ

1.6 urso ĝardeno → urso(o) ĝardeno

1./ / tagĵurnalo → taggazeto. ĵurnalo = tagaĵo よつて tagĵurnalo は「日・日刊物」

1.-/3 Ĉi-jaro estas 50 jara... はよくない。estas を生かすなら Ĉi-jare. estas を respondas al とする。

1.-/2 jura personigo → jurpersonigo または jura-personigo. jura personigo は意味不明

1.-/0 ĝi は何を指すか不明

P.30 1.3~4 Hokkaido Esp-Centro → Hokkaido を末尾へ

1.8 geangeloj. angolino はおかしい。よつて ge-をつけるのはおかしい。angelino を使つた例がアニー・ローリの Esp. 訳にあるが、nerekomendebla です。bebo, infano も無性とするのが本当でしょう。

P.3/ 1. / Radia dramo → Radiodramo. aeroplano は aera plano ではありません。

P.31.-/9 laŭ la direkto de la fluo→laŭ la fluado(aŭ fluflekso) de l' rivero.

1. 4 scenarigis→scenariigis

P.44 / 中央: H.Drezen→H.Dresen 発音はzですがDrezenはlatvo
Dresenはestonino

P.44 1. 2 fervoleはfervoreでしょう。それとも「鉄石の意志」
なのでしょうか。(タイプミス:red.)

中央: la tago kaj horo alvenonta→de via alveno

1.-2 per la japana lingvo en

P.45 1.-/ / ~ -/ 0 kiu okupis min dum kiom da tempo,
kaj kian kurslibron mi uzis→kiom da tempo ĝi
min okupis, kaj

P.46 1.-8 “だからEらしい・・・”の前に重大な脱落あり、文意不明

P.47 中央 suomo súomo úはタイプにはありません。しかし super-
signo の´はあります。ハンガリア語にはòとóがあります。
“はあつても”はふつうのタイプにないのですが私は´を打ち、
つぎに½スペースだけあとにさらに´を打つて”を得ます。同様
にフランス語のœもoとeを½スペースルずらして見事に得ます。
tajpadoのteknikoです。“_____”なども“_”の
連打で可能です。--- と _____とは、じつはちがうのです。

P.47中央の“—n—”は“-n-”なのです。第一、太さが
違います。

P.53 1.-3の neniom-igisの“—”ですが、これは、バカバカしく長
い。“—”は“-”です。タイプライターには、このふたつは
別にあるのに、なぜ一方だけを使うのか、しかも体裁のわるい
方を。P.7、12: Seattle-aの“-”を使え、ということ
です。そして.- とある所は“_____”とするのがほんとうです。
タイプストの美に対するセンスの欠乏を悲しく思います。

どうも悪い事ばかり menciiして恐縮ですが、ひとえに Leontodo をよく
したいという一心です。

(松葉菊延)

編集者から

今年で25年目を迎える Leontodo は、当初の見事を謄写版印刷から謄写ファックス、そして現在のタイプオフセット印刷と、その姿を逐次変えながらも、形態において常に地方機関紙の先頭にありました。現在においてもこのように豪華な地方機関紙は他に類を見ません。これは沢谷氏を中心とする札幌の若手活動家、タイプを打つて下さっている北島さん及び全会員の財政的協力により成り立つたものです。今後どのように編集者が変わってもこの姿はそのまま維持されていくことでしよう。

しかし、その編集内容においては、残念ながら形態に見合うだけのものはなかなか出来ていないのが現状です。これは大きく編集者の責任であると言えるわけですが、暇な学生の上の上をいう、二足三足のワラジをはいている中で編纂の仕事である上に、必ずしも活発とはいえない北海道エスペラント運動の中から記事をつまみ上げるのは容易な術ではありません。それゆえ、送つていただいた原稿は、まず、すべて紙上に発表させていただいています。そうしないと、ともかくも機関紙としての体裁が成り立たないからです。表記及び言いまわし等で、編集者が筆者の了承なしに若干手を加える事はあります。ただ内容については、その掲載を許可したことの外は、編集者は何らの責任を負うものではありません。

機関紙は、その機関の目的を達成するために発行されるものです。では、Leontodo はどんな目的を達成するために発行されているのでしょうか。それは、規約にあるとおりで「北海道におけるエスペラントの宣伝と実用をはかり、民主的文化の向上に寄与し、世界的な交流をはかる」目的のためでしょう。これはつまり、エスペラントに関したこと、また、エスペラントで書かれたもので北海道あるいは会員と何らかのつながりを持つものは、すべて Leontodo 上で発表できる、ということをお認めるものと私は解釈しています。

さて、Leontodo が1冊の形を成すまでには、企画、原稿集め、校正、タイプ、校正、割付、版下作り、オフセット印刷、製本という過程が必要なわけですが、60号の場合、裏表紙を見ていただければわかりますが、印刷に至るまでに実働した人間は3人でした。これはいずれの号の場合も変わりないといつて良いでしょう。いきおい、校正がどうしてもおろそかになりがち

です。ですから、自分の原稿を正しく印刷させるためには、まず正しく原稿を書いて下さい。特に和文の中にエスペラントの単語が混じる場合は必ず活字体で書いて下さい。筆記体ではどうしても誤りができます。その部分だけタイプで打つて下さればなお結構です。オフセット印刷は、版下がそのまま写真製版され、印刷されます。ですから、エス文の原稿なら、Leontodoの本文の大きさにタイプを打つてもらえれば、そのまま版下とすることができます。

今後は、定期的な発行を目指したいと思います。よろしくご協力願います。

星田氏、また松葉氏御本人からるの号の印刷ミス指摘がありました。慎んで下記のように訂正いたします。

		誤	正
P35	下から2 / 行目	de	da
P46	本文 / / 行目	en ajno	en ajna
	/ 2	ajnvilage	ajnvilage
	/ 3	"	"
	/ 8	de kock の fajro	Kock, Fajro
P49	下から3行目	Wijster	Wüster
P51	本文5行目	お手紙の中	削除
	下から8行目	(/ 7)	(linio 7)
	4	sordatoj	soldatoj
	3	estas	estis
P52	5行目	gatis	estis
	7行目	guste	guste
	下から10行目	"	" (2カ所)
	"	urubo	urbon
	/ 2行目	「イチカウアとなり」を文の最後に追加	
P54	下から1行目	imitigo	imitafo

低くひくく近い所で (2)

A・H

LEONTODO 60号の日本エスペラント大会参加記の中で裏巻の
ことを(Magome)(マゴメ)とどていねいに2回もカナをふつ
てしまつたが、あれは大変な間違いだつた。ツマゴと言ひのが本当
だつたんだよ。幸いどなたからも間違いを指摘されなかつたが、杜
撰なことであつた。人の名前、土地の名前はきいて見なければ解ら
ないこともあるし、間違つてもそのままおし通すこともあるんだな
あ。京と書いてアヅマ(アズマではないよ。国語審議会でヅを書か
せない事にしたのはバカげた話だね。)と読む人もあるし、ヒガン
という人もあるんだよ。山本権兵衛(海軍大将、政治家、伯爵)は
わしはゴンベエではない、ゴンノヒヨウエだと言つていたそうだが
ゴンベエの方が通つているようだね。

私が1936年のR.O.N-ro 8 30P に札幌で行なわれる第24
回日本大会のために北海道案内記を書いた事があるのだが、その中
で弟子屈の事をDojikucuと書いてしまつた。テンカガは知つ
いたんだがどういふ訳か間違つてしまつたんだね。渡部先生が「あ
たはテンカガを知らないんですか?」と抗議された。その時私は少
もあわてず「あれは内地(私はいつも本州の事を内地というんだ。
これには訳があるんだがその内に話すよ)の人にテンカガと書いた
らかえつてわからないと思ひましてね」と答えた。渡部先生も啞然
として何もおつしやらなかつたが、あとで考えるとずい分無茶な事
を言つたものだと思うよ。

イエスターベルリングや幻の馬車でエス界でも有名な Selma
Lagelöf は本当はセルマ・ラーエルレーフと読むんだよ。近頃
の本にはラゲルロフとかラゲルレフとか書いてあるがね。ノルグ号
という飛行船が来た事があるがあれも本当はノエル号なんだね。オ
ランダのハーグのそばに Scheveningen という所があり、よ

北海道エスペラント連盟会員住所録
(1977年7月/日現在)

☆印は、北海道エスペラントセンター(Hokkaido Esperanto Centro)の維持員であることを示す。

1 加盟団体

函館エス会(Hakodate Esp-Societo, HES)

040 函館市田家町12-15 市川 忠 方

振替口座(函館)9882 tel(0138)42-4575

市川 忠	040	函館市田家町12-15	42-4575
国兼 信一	040	" 花園町20-13	51
吉田 栄	040	" 弥生町7-4	23-6716

小樽エス協会(Otaru Esp-Asocio, OEA)

047 小樽市花園町3-8-13 山賀眼科内

tel(0134)22-7918

石 黒 実	047	小樽市清水7-17	32-5677
江 口 音 吉	047	" 奥沢1-24-21	22-3827
追 分 宏	073	滝川市本町493	
大 橋 敬 子	047	小樽市赤岩1-27-23	25-8845
崎 野 真 代	047	" 幸町4-31公務員宿舎56	32-4740
赤岡美和子	047	" 石山36-10	22-0681
早 川 昇	047	" 緑町1-17-4	22-0757
☆山賀 勇	047	" 花園町3-8-13	22-7918
山本昭美郎	047	" 長橋3-17-2	22-4486
渡 辺 陽 子	047	" 若竹町26-39	
高 橋 達 治	047	" 汐見台1-13	25-8690
渡 辺 クニ	047	" 若松町2-2-25	25-2487

苫小牧エス会 (Tomakomai Esp-Societo, TES)

053 苫小牧市字糸井 393-83 星田 淳 方

tel(0144)74-2539

(例会場所) 苫小牧市公民館 (本町1-1)

浦上 裕子	053	苫小牧市字糸井 348-4	
木村 洋子	053	" 新富町 2-6-21	
小林 二男	053	" 字糸井 359-30-601	
長岡 宏昭	053	" 字糸井 405-459	73-9447
永戸 良一	531	大阪市北区道本町 39 観光ビル大東洋内	
☆星田 淳	053	苫小牧市字糸井 393-83	74-2539
星田 文子	"	"	
村木 光子	053	苫小牧市字糸井 389-16-303	
山上 正一	053	" 美園町 1-8-1	33-2290

札幌エス会 (Sappora Esp-Societo, SES)

060 札幌市中央区南 2 西 4 中央タイピスト学院内

tel(011)251-4750

振替口座 (小樽) 8310

☆相 沢 治 雄	061	奈基 市住 8-105 北区北 3-7-5 すみれ荘	661-6798 721-7971
青木 了子	068-22	三笠市機春別 4	(三笠) 8408
阿波加和子	063	豊平区月寒東 1-10 朝倉マンション	
海野 俊郎	061-01	白石区もみじ台北 6N41-508	
☆大友 頼一	061-01	" 厚別西 2-2-12	891-3189
☆奥田 スミ	065	東区東苗穂 961-33	791-3155
葛西藤三郎	060	中央区北 4 西 22	643-1957
☆加藤 成子	062	豊平区月寒東 3-3 ユーハイツ蘭 2号	852-8793
川端 順造	069-01	江別市大麻園町 9	(0138)6-8817
☆木村喜壬治	061-01	白石区白石本通 17南 100	861-7564
ゴトヨシハル	062	" 白石平和通 6南 55	871-4533
☆佐藤 忠利	001	北区北 12 西 2 エルム荘	742-8023
☆佐藤 恵子	001	北区新琴似 11-1-1043	

	笹村貞雄	061-01	白石区北郷3-11	
	☆柴田昌子	062	豊平区中の島1-2	831-6290
	杉山純次	062	豊平区中の島1-10-7-39	822-9210
	鈴木正子	061-31	北区上篠路109-131	771-2833
	☆高田郁子	061-21	南区真駒内土町1-12 松村組社宅	583-2497
8	高橋要一	062	豊平区豊平5-9 道管住宅933	822-7924
	高藤燈美	061-01	白石区青葉町8-8 市営住宅F6-508	892-4060
	樽陽考	062	白石区南郷通8北15 松村方	871-9268
7	☆留目雅幸	063	西区発寒3条6丁目395	661-4965
	那須博文	065	北区新川1-6	763-0169
	西館京子	061-01	白石区青葉町5-8-5-401	892-5429
	野元哲浩	061-21	南区川沿町1876-655	571-6365
	藤井重雄	062-21	南区真駒内17-783 柏ガ丘東	581-5648
	藤田幸子	061-11	広島町西の里499 北光社ふくじゆ荘	3-2027
	☆藤村忠明	001	北区新琴似5-9-207 松明荘	761-4987
	福田伸	001	北区北10西2 高橋方	731-0567
	三沢正博	062	豊平区福住257	
	宮川美恵	062	白石区東札幌5条2丁目	823-7414
	水上侑子	064	中央区南19西10 豊平方三号	
	山本律子	061-21	南区澄川5条9丁目389-1668 澄川にぶし荘F号室	
	山岸悦子	064	中央区南7西1	531-6393
	吉原正八郎	065	北区麻生町16-2	711-7764
	吉田由美子	001	北区新川5-2	761-3678

千歳エス会 (Titose Esp-Rondo, TERO)

066 千歳市幸町5 グリンベルト ヴェルダド—モ内

tel (01232)3-4830

☆中里和夫	066	千歳市春日町1-1	3-5181
藤井千枝子	066	〃 春日町2	3-0332

北見エス協会 (Kitami Esp Rencio, KEA)

090 北見市公園町143 大島俊之 方 tel(0157)25-8234

(例会場所) 090 北見市三楽町133

北見文化会館 tel 23-0910

東 弘 美	090	北見市高砂町20-4	23-6093
天 野 久 雄	090	" 東陵町179-1 東陵ホテル内	23-6689
池 本 盛 雄	090	" 北7条西1丁目	23-2436
伊 藤 勝 啓	090	" 小泉62 公務員合同宿舍505	
今 宮 研	090	" 三楽町122 田中吉次郎 方	
大 島 俊 之	090	" 公園町143 ^{香取町7-62-506-41}	25-8234
榊 原 凱 彦		網走市卯内原	
坂 下 正 幸	090	北見市緑ヶ丘46-5	
		網走土木現業所北見出張所	25-7311
佐 ☆ 木 光 政	090	" 三輪207-37	24-0925
津 村 初 雄	090	" 三輪641-38	36-5001
永 田 喜 雄	090	" 東陵町179-1 東陵ホテル内	23-6689

2 個人 会 員

北城 郁 太 郎	043	檜山郡江差町豊川	
桜 居 基 吉	045	岩内町高台83	
那 須 栄	049-31	八雲町浜松	
☆ 平 田 岩 雄	050	室蘭市高砂町5-9-3	44-2058
村 木 昭 徳	050	" 知利別町3-2-8	
渡 辺 智 恵 子	051	" 茶津町12-48甲	
表 外 造	051	" 港南町1-3-1	23-3718
☆ 北 島 瞳	053	苫小牧市山手町2-1-2	73-6244
斉 藤 千 寿	053	" 北光町4-15-16	
菅 原 鉄 雄	059-19	勇払郡厚真町鯉沼88	
渡 部 隆 志	"	" " 130-14	
向 井 豊 昭	059-24	新冠郡新冠町中央7-1	014647-3701
☆ 新 田 為 男	069-11	夕張郡由仁町字三川	6-2655
菊 地 信 一	076	富良野市錦町4-5	

中西隆嘉	080	帯広市南町9線31
沢谷雄一	080	// 東7南6 広瀬方
小林正明	080-14	河東郡上士幌町 上士幌高校
花房義次	084	釧路市大楽毛5丁目8-1 田中方
江口正元	087	根室市宝町9
☆浜田国貞	088-14	厚岸郡浜中町市街地
米山寅吉	089-21	大樹町上萌和 (大樹) 7706 晩成ホロカヤント (夏期のみ // 8278)
岩本清	097	稚内市恵比須1-2-31
吉田恵美子	097	// 中央2丁目16-11

3 在外会員、センター維持員、機関誌購読会員

Unsink-Nagata Akiko

Beethovenlaan 6, NL - 6123 Doorwerth, Nederlando

堀江精一 270 千葉県松戸市小金原3-18-25-405
42-6254

函 5
爪 12
苔 9→5?
礼 36
4 2
北 11
個 23
在外 14
110

児玉広夫	338	埼玉県与野市大戸66355
		東海浦和マンション400 (0488)33-8158
☆清水 寛	569	高槻市東五百住町3-19-13 北海道銀行アパート
☆栗原 博	531	大阪市淀川区長柄中通1-22 長柄団地1-6
☆西川	147	東京都板橋区常盤台4-2 RB104
☆松岡耕二	177	東京都練馬区大泉334
わしおえいこ	152	// 目黒区洗足2-27-14
太田義勝	960	福島市笹木野西原2-99
柴山純一	662	西宮市大谷町11-28 炭川寮
蒔部利一	240	横浜市保土ヶ谷区西谷町921
三ッ石 清	454	名古屋市市中川区富田町春日住宅B25
影浦英明	274	船橋市前原6-1-28-108
郭 大植	535	大阪市旭区新森6-3-33

S-ro 松葉菊延の文 (N-ro 60) について	星田 啓	17
地方会の名称について	〃	19
ajno か aino か	向井豊昭	20

LEONTODO n-ro 61

1977年 7月 23日発行

発行所 北海道エスベラント連盟

060 札幌市中央区南2西4 中央タイピスト学院内

TEL 251-4750

振替口座 (小樽) 17075

編集 SATÔ T.

tajnis Kitabatake H. SATÔ T.

Redaktejo: ĉe HOKKAJDA ESPERANTO-CENTRO

052 Sapporo, Toyohira-ku, Hiragisi 1-8